

■卒業時の到達度レベル

I:単独で実施できた II:看護師・教員の指導のもとで実施できた III:見学できた(学内演習で実施できた) IV:実施・見学はしないが、知識としてわかった

4年生:133名
 入力者:116名(87.2%)

項目	技術の種類	本学卒業時の到達度	卒業時到達度達成割合	卒業時の到達度	I~IIIの到達度達成割合	I	II	III	IV	14回生卒業時到達度達成割合	前年比R3-R2	
1. 環境調整技術	1 患者にとって快適な病室環境をつくることできる	I	85.3%	I~III	100.0%	99	17	0	0	116	90.7%	-5.4%
	2 基本的なベッドメイキングができる	I	81.7%	I~III	100.0%	94	18	3	0	115	93.0%	-11.2%
	3 臥床患者のリネン交換ができる	II	88.8%	I~III	98.3%	59	44	11	2	116	92.2%	-3.5%
2. 食事の援助技術	1 患者の状態に合わせて食事介助ができる(嚥下障害のある患者を除く)	I	49.1%	I~III	98.3%	57	44	13	2	116	44.5%	4.6%
	2 患者の食事摂取状況(食行動、摂取方法、摂取量)をアセスメントできる	I	76.7%	I~III	100.0%	89	26	1	0	116	72.9%	3.9%
	3 経管栄養法を受けている患者の観察ができる	I	30.2%	I~III	94.0%	35	35	39	7	116	26.4%	3.8%
	4 患者の栄養状態をアセスメントできる	II	100.0%	I~III	100.0%	78	37	0	0	115	99.2%	0.8%
	5 患者の疾患に応じた食事内容が指導できる	II	50.0%	I~III	80.2%	12	46	35	23	116	68.0%	-18.0%
	6 患者の個性を反映した食生活の改善を計画できる	II	57.8%	I~III	80.2%	13	54	26	23	116	76.7%	-19.0%
	7 患者に対して、経鼻胃チューブからの流動食の注入ができる	II	14.7%	I~III	85.3%	4	13	82	17	116	16.4%	-1.8%
	8 モデル人形での経鼻胃チューブの挿入・確認ができる	III	88.8%	I~III	88.8%	22	33	48	13	116	89.1%	-0.4%
	9 電解質データの基準値からの逸脱がわかる	IV	100.0%	IV	100.0%	76	24	1	14	115	100.0%	0.0%
	10 患者の食生活上の改善点が見える	IV	100.0%	IV	100.0%	50	47	3	16	116	100.0%	0.0%
3. 排泄援助技術	1 自然な排便を促すための援助ができる	I	27.6%	I~III	89.7%	32	56	16	12	116	32.3%	-4.7%
	2 自然な排尿を促すための援助ができる	I	19.1%	I~III	78.3%	22	54	14	25	115	33.3%	-14.2%
	3 患者に合わせた便器・尿器を選択し、排泄援助ができる	I	22.4%	I~III	80.2%	26	33	34	23	116	23.3%	-0.8%
	4 膀胱留置カテーテルを挿入している患者の観察ができる	I	41.4%	I~III	98.3%	48	43	23	2	116	38.8%	2.6%
	5 ポータブルトイレでの患者の排泄援助ができる	II	31.3%	I~III	64.3%	6	30	38	41	115	37.2%	-5.9%
	6 患者のおむつ交換ができる	II	99.1%	I~III	100.0%	39	76	1	0	116	96.9%	2.3%
	7 失禁をしている患者のケアができる	II	60.3%	I~III	73.3%	15	55	15	31	116	53.9%	6.4%
	8 膀胱留置カテーテルを挿入している患者のカテーテル固定、カテーテル管理、感染予防の管理ができる	II	54.3%	I~III	93.1%	12	51	45	8	116	68.2%	-13.9%
	9 モデル人形に導尿または膀胱留置カテーテルの挿入ができる	III	79.1%	I~III	79.1%	14	26	51	24	115	78.7%	0.4%
	10 モデル人形にグリセリン浣腸ができる	III	45.7%	I~III	45.7%	3	7	43	63	116	37.0%	8.7%
	11 失禁をしている患者の皮膚粘膜の保護がわかる	IV	100.0%	IV	100.0%	17	31	27	41	116	100.0%	0.0%
	12 基本的な排便の方法、実施以上の留意点が見える	IV	100.0%	IV	100.0%	12	12	44	46	114	100.0%	0.0%
	13 ストーマを造設した患者の一般的な生活上の留意点が見える	IV	100.0%	IV	100.0%	26	23	15	51	115	100.0%	0.0%
4. 活動・休息援助技術	1 患者を車椅子で移送できる	I	79.3%	I~III	100.0%	92	20	4	0	116	69.3%	10.0%
	2 患者の歩行・移動介助ができる	I	59.6%	I~III	100.0%	68	40	6	0	114	53.5%	6.1%
	3 廃用症候群のリスクをアセスメントできる	I	77.4%	I~III	100.0%	89	24	2	0	115	69.0%	8.4%
	4 入眠・睡眠を意識した日中の活動の援助ができる	I	56.9%	I~III	98.3%	66	45	3	2	116	62.8%	-5.9%
	5 患者の睡眠状況をアセスメントし、基本的な入眠を促す援助を計画できる	I	59.6%	I~III	93.9%	68	31	8	7	114	61.2%	-1.6%
	6 臥床患者の体位変換ができる	II	92.2%	I~III	100.0%	39	67	9	0	115	96.1%	-3.9%
	7 患者の機能に合わせてベッドから車椅子への移乗ができる	II	75.9%	I~III	100.0%	22	66	28	0	116	85.2%	-9.3%
	8 廃用症候群予防のための自動・他動運動ができる	II	66.4%	I~III	91.4%	20	57	29	10	116	58.9%	7.5%
	9 目的に応じた安静保持の援助ができる	II	82.5%	I~III	92.1%	37	57	11	9	114	85.2%	-2.7%
	10 体動制限による苦痛を緩和できる	II	56.5%	I~III	80.9%	17	48	28	22	115	63.3%	-6.8%
	11 患者をベッドからストレッチャーへ移乗できる	II	28.4%	I~III	85.3%	3	30	66	17	116	38.8%	-10.3%
	12 患者のストレッチャー移送ができる	II	36.2%	I~III	86.2%	8	34	58	16	116	47.2%	-11.0%
	13 関節可動域訓練ができる	II	50.9%	I~III	86.0%	11	47	40	16	114	34.4%	16.5%
	14 廃用症候群のための呼吸機能を高める援助が見える	IV	100.0%	IV	100.0%	20	24	31	41	116	100.0%	0.0%
5. 清潔・衣生活援助技術	1 入浴が生体に及ぼす影響を理解し、入浴前・中・後の観察ができる	I	52.6%	I~III	94.8%	61	42	7	6	116	36.7%	15.9%
	2 患者の状態に合わせた足浴・手浴ができる	I	46.6%	I~III	96.6%	54	46	12	4	116	45.3%	1.2%
	3 清拭援助を通して、患者の観察ができる	I	71.6%	I~III	100.0%	83	32	1	0	116	65.4%	6.2%
	4 洗髪援助を通して、患者の観察ができる	I	41.4%	I~III	94.8%	48	37	25	6	116	32.8%	8.6%
	5 口腔ケアを通して、患者の観察ができる	I	44.0%	I~III	97.4%	51	42	20	3	116	39.1%	4.9%
	6 患者が身だしなみを整えるための援助ができる	I	76.5%	I~III	99.1%	88	23	3	1	115	70.6%	5.9%
	7 持続静脈内点滴注射を実施していない臥床患者の寝衣交換ができる	I	47.8%	I~III	100.0%	55	52	8	0	115	50.4%	-2.6%
	8 入浴の介助ができる	II	76.5%	I~III	94.8%	14	74	21	6	115	83.6%	-7.1%
	9 陰部の清潔保持の援助ができる	II	96.6%	I~III	100.0%	40	72	4	0	116	98.4%	-1.9%
	10 臥床患者の清拭ができる	II	95.7%	I~III	99.1%	47	64	4	1	116	96.9%	-1.2%
	11 臥床患者の洗髪ができる	II	42.2%	I~III	82.8%	14	35	47	20	116	48.4%	-6.2%
	12 意識障害のない患者の口腔ケアができる	II	38.3%	I~III	68.7%	14	30	35	36	115	39.8%	-1.6%
	13 患者の病態・機能に合わせた口腔ケアを計画できる	II	77.4%	I~III	89.6%	33	56	14	12	115	77.2%	0.2%
	14 持続静脈内点滴注射実施中の患者の寝衣交換ができる	II	79.1%	I~III	99.1%	17	74	23	1	115	81.1%	-2.0%
	15 沐浴が実施できる	II	77.6%	I~III	98.3%	22	68	24	2	116	94.5%	-16.9%
6. 呼吸・循環を整える技術	1 酸素吸入療法を受けている患者の観察ができる	I	25.0%	I~III	85.3%	29	34	36	17	116	33.3%	-8.3%
	2 患者の状態に合わせた温療法・冷療法が実施できる	I	32.5%	I~III	81.6%	37	41	15	21	114	22.7%	9.8%
	3 患者の自覚症状に配慮しながら体温調節の援助ができる	I	60.3%	I~III	88.8%	70	28	5	13	116	46.9%	13.5%
	4 末梢循環を促進するための部分浴・電法・マッサージができる	I	41.4%	I~III	88.8%	48	35	20	13	116	31.5%	9.9%
	5 酸素吸入療法が実施できる	II	18.3%	I~III	73.9%	2	19	64	30	115	13.3%	5.0%
	6 気道内加湿ができる	II	12.2%	I~III	53.9%	0	14	48	53	115	8.7%	3.5%
	7 モデル人形で、口腔内・鼻腔内吸引が実施できる	III	98.3%	I~III	98.3%	22	36	56	2	116	96.1%	2.2%
	8 モデル人形で、気管内吸引ができる	III	98.3%	I~III	98.3%	19	38	57	2	116	91.4%	6.9%
	9 モデル人形あるいは学生間で体位ドレナージを実施できる	III	98.3%	I~III	98.3%	35	29	50	2	116	93.5%	4.7%
	10 酸素ボンベの操作ができる	III	76.5%	I~III	76.5%	5	24	59	27	115	88.3%	-11.8%
	11 気管内吸引時の観察点が見える	IV	100.0%	IV	100.0%	40	31	22	23	116	100.0%	0.0%
	12 酸素の危険性を認識し、安全管理の必要性が見える	IV	100.0%	IV	100.0%	50	21	12	33	116	100.0%	0.0%
	13 人工呼吸器装着中の患者の観察点が見える	IV	100.0%	IV	100.0%	29	29	21	35	114	100.0%	0.0%
	14 低圧胸腔内持続吸引中の患者の観察点が見える	IV	100.0%	IV	100.0%	14	13	16	71	114	100.0%	0.0%
	15 循環機能のアセスメントの視点が見える	IV	100.0%	IV	100.0%	68	28	2	18	116	100.0%	0.0%
7. 創傷管理技術	1 患者の褥創発生の危険をアセスメントできる	I	78.1%	I~III	98.2%	89	20	3	2	114	67.4%	10.6%
	2 褥創予防のためのケアが計画できる	II	91.2%	I~III	97.4%	57	47	7	3	114	90.6%	0.7%
	3 褥創予防のためのケアが実施できる	II	82.5%	I~III	96.5%	29	65	16	4	114	72.1%	10.4%
	4 患者の褥創の観察ができる	II	76.7%	I~III	94.0%	37	52	20	7	116	68.2%	8.5%
	5 学生間で基本的な包帯法が実施できる	III	91.3%	I~III	91.3%	50	27	28	10	115	87.5%	3.8%
	6 創傷処置のための無菌操作ができる(ドレーン類の挿入部の処置も含む)	III	90.4%	I~III	90.4%	10	25	69	11	115	85.8%	4.6%
8. 与薬の技術	1 創傷処置に用いられる代表的な消毒薬の特徴が見える	IV	100.0%	IV	100.0%	32	18	18	48	116	100.0%	0.0%
	1 経口薬(パルサル錠・内服薬・舌下錠)の服薬後の観察ができる	II	61.2%	I~III	75.0%	24	47	16	29	116	62.5%	-1.3%
	2 経皮・外用薬の投与前後の観察ができる	II	56.9%	I~III	69.8%	23	43	15	35	116	60.9%	-4.0%
	3 直腸内与薬の投与前後の観察ができる	II	21.9%	I~III	49.1%	12	13	31	58	114	32.8%	-10.9%
	4 点滴静脈内注射を行っている患者の観察点が見える	II	84.2%	I~III	94.7%	44	52	12	6	114	86.8%	-2.6%
	5 モデル人形に直腸内与薬が実施できる	III	28.3%	I~III	28.3%	2	4	26	81	113	22.7%	5.7%
	6 点滴静脈内注射の輸液の管理ができる	III	89.7%	I~III	89.7%	7	39	58	12	116	92.1%	-2.5%
7 モデル人形または学生間で皮下注射が実施できる	III	90.5%	I~III	90.5%	14	38	53	11	116	94.5%	-4.0%	

	8	モデル人形または学生間で筋肉内注射が実施できる	III	91.3%	I~III	91.3%	12	37	56	10	115	92.2%	-0.9%
	9	モデル人形に点滴静脈内注射が実施できる	III	93.1%	I~III	93.1%	13	39	56	8	116	90.6%	2.5%
	10	輸液ポンプの基本的な操作ができる	III	75.0%	I~III	75.0%	3	23	61	29	116	89.1%	-14.1%
	11	経口薬の種類と服用方法がわかる	IV	100.0%	IV	100.0%	46	18	10	41	115	100.0%	0.0%
	12	経皮・外用薬の与薬方法がわかる	IV	100.0%	IV	100.0%	43	21	8	43	115	100.0%	0.0%
	13	中心静脈内栄養をうけている患者の観察点がわかる	IV	100.0%	IV	100.0%	28	23	15	50	116	100.0%	0.0%
	14	皮内注射後の観察点がわかる	IV	100.0%	IV	100.0%	26	23	10	55	114	100.0%	0.0%
	15	皮下注射後の観察点がわかる	IV	100.0%	IV	100.0%	29	23	15	48	115	100.0%	0.0%
	16	筋肉内注射後の観察点がわかる	IV	100.0%	IV	100.0%	28	17	21	50	116	100.0%	0.0%
	17	静脈内注射の実施方法がわかる	IV	100.0%	IV	100.0%	30	21	32	33	116	100.0%	0.0%
	18	薬理作用をふまえた静脈内注射の危険性がわかる	IV	100.0%	IV	100.0%	34	22	14	45	115	100.0%	0.0%
	19	静脈内注射実施中の異常な状態がわかる	IV	100.0%	IV	100.0%	34	22	13	47	116	100.0%	0.0%
	20	抗生物質を投与されている患者の観察点がわかる	IV	100.0%	IV	100.0%	26	27	10	53	116	100.0%	0.0%
	21	インシュリン製剤の種類に応じた投与方法がわかる	IV	100.0%	IV	100.0%	27	20	31	36	114	100.0%	0.0%
	22	インシュリン製剤を投与されている患者の観察点がわかる	IV	100.0%	IV	100.0%	32	25	24	35	116	100.0%	0.0%
	23	麻薬を投与されている患者の観察点がわかる	IV	100.0%	IV	100.0%	22	17	16	61	116	100.0%	0.0%
	24	薬剤等の管理(毒薬・劇薬・麻薬・血液製剤を含む)方法がわかる	IV	100.0%	IV	100.0%	32	16	27	41	116	100.0%	0.0%
	25	輸血が生体に及ぼす影響をふまえ、輸血前・中・後の観察点がわかる	IV	100.0%	IV	100.0%	17	17	13	69	116	100.0%	0.0%
9. 救命救急処置技術	1	緊急なことが生じた場合にはチームメンバーへの応援要請ができる	I	21.7%	I~III	72.2%	25	19	39	32	115	27.1%	-5.4%
	2	患者の意識状態を観察できる	II	74.8%	I~III	93.9%	54	32	22	7	115	78.3%	-3.5%
	3	モデル人形で気道確保が正しくできる	III	98.3%	I~III	98.3%	45	20	49	2	116	96.1%	2.2%
	4	モデル人形で人工呼吸が正しく実施できる	III	97.4%	I~III	97.4%	44	19	50	3	116	95.3%	2.1%
	5	モデル人形で閉鎖式心マッサージが正しく実施できる	III	96.6%	I~III	96.6%	39	23	50	4	116	94.5%	2.0%
	6	除細動の原理がわかりモデル人形にAEDを用いて正しく実施できる	III	99.1%	I~III	99.1%	45	20	50	1	116	97.7%	1.5%
	7	意識レベルの把握方法がわかる	IV	100.0%	IV	100.0%	58	18	17	21	114	100.0%	0.0%
	8	止血法の原理がわかる	IV	100.0%	IV	100.0%	47	16	20	31	114	100.0%	0.0%
10. 症状・生体機能管理技術	1	バイタルサインが正確に測定できる	I	91.3%	I~III	100.0%	105	9	1	0	115	93.7%	-2.4%
	2	正確に身体計測ができる	I	44.8%	I~III	81.9%	52	21	22	21	116	51.2%	-6.3%
	3	患者の一般状態の変化に気づくことができる	I	62.9%	I~III	97.4%	73	38	2	3	116	52.0%	11.0%
	4	系統的な症状の観察ができる	II	96.5%	I~III	98.3%	52	59	2	2	115	95.3%	1.2%
	5	バイタルサイン・身体測定データ・症状などから患者の状態をアセスメントできる	II	99.1%	I~III	100.0%	79	35	1	0	115	99.2%	-0.1%
	6	目的に合わせた採尿の方法を理解し、尿検体の正しい取り扱いができる	II	25.2%	I~III	57.4%	7	22	37	49	115	39.8%	-14.6%
	7	簡易血糖測定ができる	II	44.3%	I~III	94.8%	26	25	58	6	115	43.3%	1.0%
	8	正確な検査が行なえるための患者の準備ができる	II	50.0%	I~III	84.5%	13	45	40	18	116	60.2%	-10.2%
	9	検査の介助ができる	II	31.0%	I~III	68.1%	11	25	43	37	116	44.9%	-13.8%
	10	検査後の安静保持の援助ができる	II	39.1%	I~III	67.8%	11	34	33	37	115	43.8%	-4.6%
	11	検査前、中、後の観察ができる	II	43.5%	I~III	67.0%	16	34	27	38	115	60.2%	-16.7%
	12	モデル人形または学生間で静脈血採血が実施できる	III	84.5%	I~III	84.5%	18	27	53	18	116	93.8%	-9.3%
	13	血液検査の目的を理解し、目的に合わせた血液検体の取り扱いがわかる	IV	100.0%	IV	100.0%	17	19	22	58	116	100.0%	0.0%
	14	身体侵襲を伴う検査の目的・方法、検査が生体に及ぼす影響がわかる	IV	100.0%	IV	100.0%	35	17	15	48	115	100.0%	0.0%
11. 感染予防技術	1	スタンダード・プリコーション(標準予防策)に基づく手洗いが実施できる	I	100.0%	I~III	100.0%	112	3	0	0	115	100.0%	0.0%
	2	必要な防護用具(手袋、ゴーグル、ガウン等)の装着ができる	II	97.4%	I~III	100.0%	90	23	3	0	116	96.9%	0.5%
	3	使用した器具の感染防止の取り扱いができる	II	94.8%	I~III	96.6%	78	32	2	4	116	96.1%	-1.3%
	4	感染性廃棄物の取り扱いができる	II	97.4%	I~III	99.1%	92	21	2	1	116	98.4%	-1.0%
	5	無菌操作が確実にできる	II	71.7%	I~III	99.1%	33	48	31	1	113	66.4%	5.3%
	6	針刺し事故防止の対策が実施できる	II	57.4%	I~III	94.8%	42	24	43	6	115	48.4%	9.0%
	7	針刺し事故防止後の感染防止の方法がわかる	IV	100.0%	IV	100.0%	47	10	25	34	116	100.0%	0.0%
12. 安全管理の技術	1	インシデント・アクシデントが発生した場合には、速やかに報告できる	I	46.1%	I~III	61.7%	53	10	8	44	115	40.6%	5.5%
	2	災害が発生した場合には、指示に従って行動がとれる	I	31.9%	I~III	44.8%	37	6	9	64	116	25.0%	6.9%
	3	患者を誤認しないための防止策を実施できる	I	64.7%	I~III	96.6%	75	15	22	4	116	60.9%	3.7%
	4	患者の機能や行動特性に合わせて療養環境を安全に整えることができる	II	93.1%	I~III	96.6%	65	43	4	4	116	96.1%	-3.0%
	5	患者の機能や行動特性に合わせて転倒・転落・外傷予防ができる	II	94.8%	I~III	99.1%	57	53	5	1	116	95.3%	-0.5%
	6	放射線曝露の防止のための行動がとれる	II	39.7%	I~III	52.6%	21	25	15	55	116	44.2%	-4.5%
	7	誤薬防止の手順にそった与薬ができる	III	80.9%	I~III	80.9%	15	14	64	22	115	91.5%	-10.6%
	8	人体へのリスクの大きい薬剤の暴露の危険性および予防策がわかる	IV	100.0%	IV	100.0%	29	14	18	53	114	100.0%	0.0%
13. 安全確保の技術	1	患者の状態に合わせて安楽に体位を保持することができる	II	92.2%	I~III	96.6%	43	64	5	4	116	94.5%	-2.3%
	2	患者の安楽を促進するためのケアができる	II	93.1%	I~III	97.4%	44	64	5	3	116	93.8%	-0.6%
	3	患者の精神的安寧を保つための工夫を計画できる	II	87.1%	I~III	93.1%	50	51	7	8	116	88.3%	-1.2%
赤十字災害看護学における追加項目	1	心のケアができる	III	50.9%	I~III	50.9%	16	23	20	57	116	56.3%	-5.4%
	2	トリアージタグの取り扱いができる	II	48.3%	I~III	89.7%	27	29	48	12	116	43.8%	4.5%
	3	トリアージができる	II	41.4%	I~III	80.2%	17	31	45	23	116	38.0%	3.4%
	4	担架による患者搬送ができる	II	29.3%	I~III	75.9%	9	25	54	28	116	31.0%	-1.7%
	5	三角巾による傷の手当ができる	II	56.9%	I~III	95.7%	32	34	45	5	116	50.8%	6.1%
	6	救助所の設営方法がわかる	IV	100.0%	IV	100.0%	8	12	14	81	115	100.0%	0.0%
				73.0%		90.4%						73.6%	-0.5%

※青字…前年度と比較して20%以上30%未満の低下を認めた項目

赤字…前年度と比較して30%以上の低下を認めた項目

薄黄色塗りつぶし…前年度と比較して増加を認めた項目